小　学　校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

生　活

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 …… 1

Ⅱ　研究の視点 …… 2

Ⅲ　研究仮説 …… 2

Ⅳ　研究の方法 …… 2

Ⅴ　研究の内容 …… 3

Ⅵ　研究の成果と課題 …… 23

研究主題

自立し生活を豊かにしていく児童の育成

～児童の思いや願いを深い学びにつなぐ指導の工夫～

Ⅰ　研究主題設定の理由

平成 29 年３月に告示された新小学校学習指導要領の生活科の教科目標は、次のとおりである。

> 具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
> (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
> (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
> (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

生活科の教科目標について、平成 29 年６月に示された小学校学習指導要領解説生活編では、「自立し」とは、「一人一人の児童が幼児期の教育で育まれたことを基礎にしながら、学習上の自立、生活上の自立、精神的な自立の度合いを高めていくこと」と記されている。また、「生活を豊かにしていく」とは、「生活科の学びを実生活に生かし、よりよい生活を創造していくことであり、自分自身が成長していくこと」と記されている。ここでいう「豊か」とは、「自分自身や身近な人々、社会及び自然が一層大切な存在になって、日々の生活が楽しく充実したり、夢や希望が膨らんだりすること」である。

また、生活科では、児童の思いや願いを育み、意欲や主体性を高める学習過程で身近な生活に関わる見方･考え方を生かし、直接体験で得た気付きを繰り返し表現することによって、その質を高めながら、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が育成されていく。そして、それが生活科における深い学びにつながると考える。

しかし、気付きを表現することについて、児童へのアンケート調査をしたところ、「探検したり、観察したりして分かったことを、みんなで発表し合うことは好きですか。」と質問に対して、肯定的な回答をした児童は約 60％にとどまった。さらに、「自分の思っていることや考えていることを周りの人に話すことができない」児童は約 40％にも上り、自分の思いや考えを表現することに苦手意識をもっている児童がいることが明らかとなった。

これらの児童の実態を踏まえ、児童が自立し生活を豊かにしていくには、思考力、判断力、表現力等を重視した学習活動を展開し、児童の思いや願いを深い学びにつなげることが大切であると考えた。

そこで、本研究では、研究主題を「自立し生活を豊かにしていく児童の育成」とし、「児童の思いや願いを深い学びにつなぐ指導の工夫」を副主題とした。

Ⅱ　研究の視点

研究主題に迫るために、次の視点から、研究を進めていくこととした。

○見方・考え方を生かした活動を通じて「思考力、判断力、表現力等の基礎を育成するための指導」

副主題にある、生活科における「深い学び」とは、「身近な生活に関わる見方・考え方を生かした活動や体験の過程の中で、気付きの質の高まり」と考えている。また、「見方・考え方を生かした活動」とは、分析的に考える「見付ける」、「比べる」、「試す」、創造的に考える「見通す」、「たとえる」、「工夫する」学習活動と考えた。

生活科の学習においては、児童の思いや願いをもとにした体験活動が行われているが、「活動あって学びなし」との批判があるように、活動を通してどのような思考力等が発揮されるか十分に検討する必要がある。そこで、見方・考え方を生かした活動を通じて「思考力、判断力、表現力等の基礎を育成すること」に視点を置いた。

Ⅲ　研究仮説

上記の視点から、自立し生活を豊かにしていく児童の育成をするために、児童の思いや願いを深い学びにつなぐ指導の工夫を図ることによって、研究主題に迫ることができると考え、以下のとおり、研究の仮説を設定した。

> 生活科における見方・考え方を生かし、思考力、判断力、表現力等の基礎を育成する活動を繰り返すことで、自立し生活を豊かにしていく児童が育つであろう。

Ⅳ　研究の方法

1　基礎研究

今後の生活科の方向性を明確にするために、「新小学校学習指導要領及び新小学校学習指導要領解説生活編」の分析を行った。

2　調査研究

生活科の学習状況を把握し、授業を改善するための調査・分析を行った。

①都内Ａ区、Ｂ区の第２学年、第３学年学習状況調査における回答の分析

②第１、２学年児童（約 885 人）に対し、質問紙による調査

3　実践研究

研究の視点が有効であるかについて検証を行った。

検証授業①　第１学年「みんなであそぼう！　なつのあそびだいしゅうごう」

検証授業②　第１学年「いきものとなかよし」

検証授業③　第１学年「いきものとなかよし」

Ⅴ　研究の内容

1　基礎研究

新小学校学習指導要領及び新小学校学習指導要領解説生活編の分析を行い、「自立し生活を豊かにする」の捉え方を明らかにして目指す児童像を設定するとともに、育成すべき資質・能力を基に、生活科における深い学びの在り方として、次のように考えた。

○生活科で目指す児童像

生活科における自立とは、
- 学習上・・見通しをもって学習をすすめられる子
- 生活上・・自ら身近な人々、社会、自然と関わる子
- 精神的・・自分のよさを見付け、これからの生活に生かしていく子

高めるために

○生活科における深い学びの在り方

資質・能力の育成が不可欠である三つの柱
- 知識及び技能の基礎
- 思考力、判断力、表現力等の基礎
- 学びに向かう力、人間性等

また、学習指導要領において、見方・考え方を生かし、「思考力、判断力、表現力等の基礎」を育成するための学習活動が求められている。身近な生活に関わる見方・考え方を生かした活動とは、以下の活動である。

○身近な生活に関わる見方・考え方を生かした活動

見方・考え方を生かす六つの活動や体験
- 見付ける
- 比べる
- 試す

分析的な考え

- 見通す
- たとえる
- 工夫する

創造的な考え

繰り返す

- 相手と伝え合う
- 発表し合う
- 振り返り

これらの活動や体験を繰り返すことで、新たな気付きが生まれたり、気付きと気付きが関連付けられたりする。これらが確認されたときなどに、気付きの質が高まったということができ、生活科における深い学びとなる。そこで、次のような手だてを設定し、研究を進めることとした。

(1) 身近な人々、社会、自然と繰り返し、直接働きかける活動や体験を重視する。
(2) 振り返りの時間の確保とその内容を重視する。
(3) 活動や体験の過程を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かせるようにする。
(4) 単元計画と授業の組み立て方を工夫する。

２　調査研究

(1) 調査のねらい

児童が学習活動についてどのような意識をもっているかを調査し、本研究の視点や具体的な指導の工夫を明らかにするために、都内二つの区が実施した学習状況調査の分析及び部員の所属校における児童を対象とした「生活科の学習に関する実態調査」を実施した。

(2) 調査項目と内容

平成 28 年４月に、都内二つの区が実施した学習状況調査の生活科に関する質問項目のうち、次の４点について分析を行うと共に、研究員所属校でも同じ内容の調査を行った。

①　みんなで身の回りの探検をしたり、観察をしたりするのは楽しいですか。
②　探検したり、観察をしたりして分かったことを、みんなで発表し合うことは好きですか。
③　自分の思っていることや考えていることを周りの人に話しますか。
④　勉強をしていて、不思議だなと思ったことがあったら自分で調べてみますか。

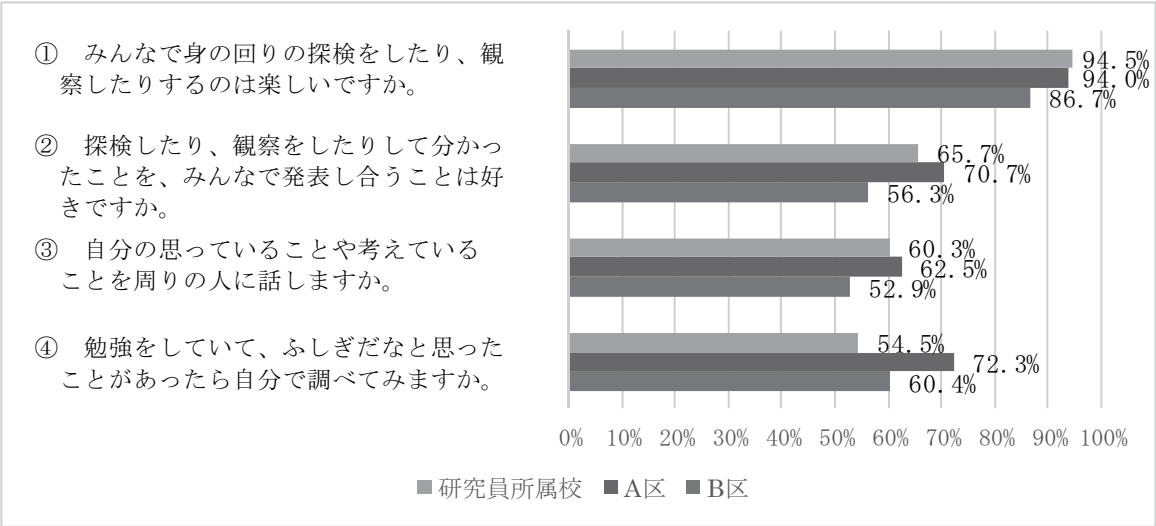
(3) 調査概要

〇調査期間　　平成 29 年７月

〇調査対象　　教育研究員所属校５校

〇調査方法　　質問紙による選択肢法

(4) 調査結果と考察



［図１　生活科の学習に関する実態調査　肯定的な回答をした児童の割合］

調査結果から、児童は活動や体験に意欲的に取り組む一方で、自分の思いや考えを相手に伝えたり、発表したりすることを苦手とする児童が少なからずいることが分かる。みんなで発表し合ったり、自分の思いを人に話したりすることについても肯定的な回答が体験や活動が楽しいと感じている児童に比べて少ない。加えて自ら課題を調べる児童の割合も比較して少ないことが分かった。このことから、これらの改善が学び合う児童の育成には不可欠であると考えた。

3　研究構想図

新小学校学習指導要領　生活科の目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

(2)　身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

(3)　身近な人々、社会及び自然に自ら働き掛け、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

↓

児童の実態

○活動や体験に意欲的に取り組む一方で、自分の思いや考えを相手に伝えたり、発表したりすることを苦手とする児童が少なからずいる。

↓

目指す児童像

見通しをもって学習をすすめられる子
自ら身近な人々、社会、自然と関わる子
自分のよさを見付け、これからの生活に生かしていく子

↓

仮説

生活科における見方・考え方を生かし、思考力、判断力、表現力等の基礎を育成する活動を繰り返すことで、自立し生活を豊かにしていく児童が育つであろう。

思いや願いをもとにした活動や体験　⇄　**繰り返し**　⇄　**思考力、判断力、表現力等の基礎を育成する活動**

↓

研究主題

自立し生活を豊かにしていく児童の育成

～児童の思いや願いを深い学びにつなぐ指導の工夫～

手だて(1)
身近な人々、社会、自然と繰り返し、直接働きかける活動や体験を重視する。

手だて(2)
振り返りの時間の確保とその内容を重視する。

手だて(3)
活動や体験の過程を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かせるようにする。

手だて(4)
単元計画と授業の組み立て方を工夫する。

4　検証授業

検証授業(1) 第１学年（実施時期７月）

1　単元名

「みんなであそぼう！　なつのあそび　だいしゅうごう」（全 10 時間）

2　単元の目標

梅雨や夏の暑い日に、身近にある自然を観察したり、夏の遊びを楽しんだりする活動を通して、そこで感じたことをすなおに表現し、四季の変化や季節によって生活が変わることに気付き、自分たちの生活をより豊かなものにするようにする。

3　単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
ア　梅雨や夏の自然に関心をもち、自分の思いや願いをもって遊びを楽しもうとしている。	ア　梅雨や夏などの身近な自然に対して、諸感覚を使って観察したり遊んだりすることができる。	ア　春に比べて自然の様子が変わってきたことや、その季節によって生活が変わり、その季節にしかできない遊びが楽しいことに気付くことができる。

4　単元の概要

本単元は、学習指導要領内容(5)を基にし、夏の校庭の自然に着目して諸感覚を使って観察したり、水や土や砂を使って身近な自然のものを使って遊んだりすることで、四季の変化を体全体で感じ取り、夏の暑い季節でも自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにすることをねらいとしている。

児童は、ホースや水やり用のペットボトルキャップを使って頭から水に濡れ、裸足でコンクリートや砂の上を歩き、熱さと冷たさを肌で感じていた。短時間ではあったが、暑い日に水に濡れることの心地よさを味わうことができ、楽しむ様子が見られた。このことから、夏の自然を使った遊びを知ることで、夏の遊びが広がり、休み時間や放課後にも工夫した遊びを取り入れて、自らの生活を楽しく潤いのあるものにしていこうとする児童が増えるとよいと願っている。

5　主題に迫る手だて

(1) 身近な人々、社会、自然と繰り返し、直接働き掛ける活動や体験を重視する。

・遊びの活動時間を十分に確保した上で、活動を通して児童が自分の思いや願いを実現できるように繰り返し体験させる。

(2) 振り返りの時間の確保とその内容を重視する。

・児童の思いや活動の足跡が残るように、活動後の振り返りの時間を十分に確保する。

・活動後に、今日思ったことと、次にしてみたいことの二つを視点として振り返らせる。

6　学習指導計画（10 時間扱い）

時	学習活動	○支援　手だて　◆評価
1	・夏にしたい遊びについて話し合う。 みずあそびをしよう	○児童が活動をイメージしやすい気候の日に単元の活動に入るようにする。手だて(1)
2	・校庭で水を使って遊ぶ。 ・ホースを使って遊ぶ。 ・アサガオの水やり用のペットボトルに水を入れて遊ぶ。 水で絵が描けるんだね。	◆夏の自然に関心をもち、遊びを楽しもうとしている。 （関心ア―行動、発言） ◆諸感覚を使って水を使って遊んだことをすなおに表現している。 （思考ア―発言・カード）
3	なつのあそびをしよう（１回目） ・次にしたい夏の遊びについて話し合う。 ・遊びたいグループごとに分かれ、どのような遊びにしたいかを話し合い、イメージを膨らませる。	○前時の活動を振り返り、「もっといろいろな材料を使って遊びたい」などの児童の言葉から、様々な夏の遊びを出し合うことを伝える。手だて(2)
4	・グループに分かれて、自分のしたい遊びを楽しむ。 色水グループ、シャボン玉グループ、泥の川グループ、船グループ、水鉄砲グループ 水と土に手や足を入れると冷たくて気持ちがいいね。	○活動時間を十分に確保し、思いや願いをもって遊びに没頭できるようにさせる。手だて(1) ◆自分の思いや願いをもって水や土、砂などを使った遊びを楽しもうとしている。（関心ア―発言、行動）

5	・楽しかった夏の遊びの気付きを伝え合い、２回目の夏の遊びで遊びたいグループごとに分かれ、どのような遊びにしたいかを話し合う。 いろいろな葉っぱで色水を作ったことが楽しかったよ。	○それぞれのグループで楽しく遊んでいた遊び方を振り返り、次に試してみたいことを共有させる。手だて(2) ◆水や土、砂などを使って、楽しく遊んだことを伝えたり、次時では、どんな遊びをしたいか、何が必要かを話し合ったりすることができる。 （思考ア―発言、行動）
6	たのしく　なつのあそびをしよう（２回目）	
	・グループに分かれて、自分のしたい遊びを楽しむ。 色水グループ、シャボン玉グループ、泥の川グループ、船グループ、水鉄砲グループ 今日はアサガオのしぼんだ花びらを集めて色水を作ってみよう。 葉っぱで泥団子をぴかぴかに磨いたよ。	○遊びに使うものは事前に準備させたり作っておいたりすることを伝えることで、遊びの活動時間の確保を図る。手だて(1) ○遊びが発展しそうなグループが隣り合うように場所を設定する。 ○遊びに必要なもので、家庭から持ってこられるものは家の人と相談して持って来てもよいことを事前に伝える。 ○活動が停滞している児童には、一緒に遊びながら、「遊び方を教えてもらおう。」などと声を掛け、楽しく遊んでいると児童との関わりを促す。 ◆水や土、砂などを使った遊びを楽しむことができる。（思考ア―行動、表現物）
7	・楽しかった夏の遊び（２回目）の気付きを伝え合い、振り返る。 ・グループごとに分かれ、３回目の夏遊びをどのような遊びにしたいかを話し合う。	○水や土、砂などと繰り返し関わったことで分かる自然の違いや特徴に気付いた児童の言葉などを紹介し、全体で共有する。手だて(2) ◆水や土、砂などを使って、楽しく遊んだことをカードに表現して、友達に伝えることができる。 （思考ア―発言、行動）

8	もっとたのしくなつのあそびをしよう （３回目） ・グループの友達と楽しく遊ぶ。 色水グループ、シャボン玉グループ、泥の川グループ、船グループ、水鉄砲グループ （本時：８時間目） ストローの種類を変えてシャボン玉を吹いてみよう。 水を遠くに飛ばす競争をしよう。 大きな川を作りたいね。 ぼくたちは、長い川を作ろう。 	○遊びながら、もっと面白い遊び方を見付けられたら、どんどん試してみるとよいことを伝える。手だて(1) ○前時の話合いで出された道具や材料をそろえておく。 ○グループの友達が見付けた楽しい遊びに気付いたら、試してみるとよいことを伝える。 ○水や土、砂などと繰り返し関わったことで分かる自然の特徴に気付いた児童の言葉などを紹介し、全体で共有する。手だて(2) ◆水や土、砂などを使って、グループの友達と楽しく遊ぶことができる。 （思考ア―行動、表現物） ◆季節によって生活が変わり、その季節にしかできない遊びが楽しいことに気付いている。 （気付きア―発言、カード）

9	みんなであそぼう！ なつのあそびだいしゅうごう ・友達のグループの遊び方で遊ぶ。 ・遊び方を教え合いながら、友達が考えた遊び方で楽しく遊ぶ。 	○遊びグループを２グループに分けて、交代で遊んだり友達に自分たちの遊び方を教えたりする活動の仕方を伝える。手だて(1) ◆水や土、砂などを使ったいろいろな遊びを、友達と仲良く楽しんでいる。 （思考ア―行動）
10	・水や土、砂遊びをして楽しかったことや分かったことなどを絵や文で表現して、友達と伝え合う。 ・水や土、砂遊びをしたことをカードに表す。 ・カードを見せながら、友達と楽しかったことや分かったことを伝え合う。	○水や土、砂などと繰り返し関わったことで分かる自然の違いや特徴に気付いた児童の言葉などを紹介し、全体で共有する。手だて(2) ◆その季節にしかできない遊びが楽しいことに気付くとともに、季節と自分の生活との関わりに気付いている。 （気付きア―発言、カード）

7　検証授業を振り返って

○　手だて(1)について

当初は、毎回自分が好きな遊びを選んで行ったが、気付きが深まらなかった。そこで、同じ遊びを同じグループのメンバーと繰り返すという条件を設定した。その結果、気付きが深まるとともに、手だて(3)につながる気付き（「見通す」、「試す」、「比べる」など）が見られる活動となった。

シャボン玉は風が吹くと自分の方にくるけど、吹かないと前に飛んでいくよ。次は、風が吹いているときに下に吹いて、下に飛んでいくのか確かめてみたい。【試す】【見通す】

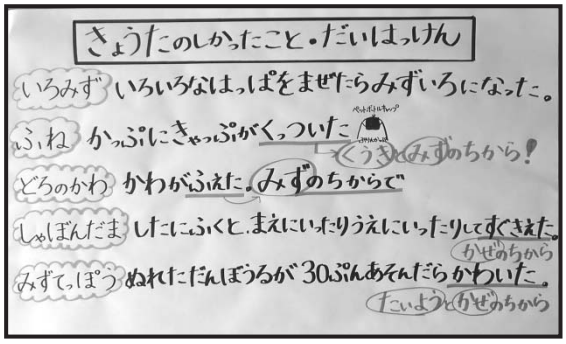
的当てで濡れたダンボールが30分放っておいたら、乾いたよ！洗濯物を干す時と同じで、太陽と風の力なのかな。【見通す】

前よりたくさんの水を一気に流してみたら、水が自分で道を作ったよ！次もどんどん水をいっぱい入れてみたい。【比べる】【試す】

○　手だて(2)について

他の友達の気付きを関連付けるために、振り返りの内容を可視化したことで、一人一人の気付きを関連付けることができた。

気付きを可視化したボード



この二つの手だてによって、学びの深まりの鍵である見方・考え方「試す、比べる、見通す」などを生かした活動や表現が表出された。活動における気付きの質をさらに高めるため、次の検証授業において、手だて(3)「活動や体験の過程を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かせるようにする」を加えることとした。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に向け、手だて(4)「単元計画と授業の組み立て方を工夫する」を加えることとした。

検証授業(2)　第１学年（実施時期９月）

１　単元名

「いきものとなかよし」（全 10 時間）

２　単元の目標

小動物や昆虫など、身近な生き物に関心をもち、自分で世話の仕方を調べたり、世話をしたりして、その生態の成長、変化に気付くとともに、生き物の命を大切に感じ、親しみをもって世話をすることができるようにする。

３　単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
ア　生き物と遊んでみたい、生き物を飼ってみたい、など、生き物と関わろうとしている。	ア　生き物と触れ合い、世話の仕方を考えたり、調べたりしている。 イ　生き物と触れ合ったり、世話をしたりしながら、気付いたことやその楽しさを自分なりの方法で表現したり、伝え合ったりしている。	ア　生き物との触れ合いを通して、生き物の気持ちに近づき、生き物も自分たちと同じように生きていることに気付いている。 イ　生き物への親しみが増し、よりよい世話をすることができる自分に気付いている。

４　単元の概要

本単元は、学習指導要領内容(7)を基にし、校庭の生き物（昆虫）とふれ合ったり、世話をしたりして、その変化や成長することの楽しさを感じ取り、それらと自分との関わりや世話をしてきた自分の気持ちの変容に気付きを生み出していくことをねらいとしている。１人１匹の虫を飼育することで責任をもって飼育し、生き物の変化や成長の様子に気付き、「生き物はかわいい」「生き物の命を大切にしよう」という気持ちが高まっていくことを期待したい。また、虫や小さな生き物に抵抗感をもつ児童には、軍手を着用させたり、タオル等で包んで触れさせたりして、間接的なふれ合いから始めることにする。生き物の「死」に直面した場合には、生命の尊さを実感する機会と捉え活動を進める。

５　主題に迫る手だて

(1) 身近な人々、社会、自然と繰り返し、直接働きかける活動や体験を重視する。

・体験活動を通して自分の思いや願いをもてるよう、はじめは全員で生き物探しに繰り返し出かけ、その後、飼育する虫の種類別又は目的別グループで活動する。

・主体的に取り組めるよう、１人１種類の生き物を飼育する。

(2) 振り返りの時間の確保とその内容を重視する。

・気付きを確かなものにし、活動の見通しをもたせられるよう、振り返りの時間を十分に確保する。

・気付いたことを表現できるよう、ノート等を活用し相手と伝え合うことで、新たな気付きを促すようにする。

これらの手だてに取り組むとともに、７月の検証授業における課題を改善するため、次の手だてを加えた。

(3) 活動や体験の過程を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かせるようにする。

・飼育への見通しがもてるよう、飼育に関連する図書を常時置く。

・飼育への興味・関心を持続させられるよう、「虫さんコーナー」を掲示し、生き物の変化や成長の様子などの情報をいつでも共有できるようにする。

・気付きの質が高まるよう、身近な生活に関わる見方・考え方の６視点（見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫する）を意識した声掛けをする。

(4) 単元計画と授業の組み立て方を工夫する。

・児童の思いや願いを基にした体験活動を充実させられるよう、児童の思いや願いをあらかじめ想定し、他教科との関連や外部機関との連携を図る。

例　国語、図画工作、道徳等を中心とした他教科との関連
　　多摩動物公園との連携（モルモットふれあい教室）
　　ゲストティーチャーの招聘
　　生き物に関連する図書の紹介等、図書館司書との連携

６　学習指導計画（10 時間扱い）

	学習活動	○支援　手だて　◆評価
1 2 3	生き物さがしに行こう（共通体験） ・校庭、ビオトープ、学校林など、自分たちで決めた場所へ、自分が必要と考えた道具をもち、生き物探しに行く。 ・見付けた生き物と触れ合い、感じたことや気付いたことを話し合ったり、ノートに書いたりする。 ・次回、飼育への見通しをもつ。 生き物に対して抵抗感の強い児童には、軍手を着用させたり、タオル等で包んで触れさせたりして間接的なふれ合いから始める	○体験活動を通して具体的な思いや願いがもてるようにする。 手だて(1) ○昆虫との接し方、接した後の手洗いについて伝える。 ○飼育への興味・関心、見通しがもてるよう、関連図書を常時置き、活動を方向付ける。手だて(3) ○振り返りの時間を確保し、気付いたことをノートに書いたり、友達と伝え合ったりし、気付きを確かなものへと促す。手だて(2)

	バッタがいっぱいだ。 トンボは池の近くにいるよ。 虫かごがないから、野菜パックを持ってきたよ。 １学期よりトンボの飛ぶスピードが速いよ。	◆生き物とふれ合い、関わろうとしている。　（意欲ア―観察） ◆生き物とふれ合った経験を、絵や文で自分なりに表現している。 （思考イ－発言、ノート）
4 5 6	生き物となかよくなろう！ ・飼いたい生き物について調べたり、世話をしたり、遊んだりする。（本時：４時間目） ＜飼育する生き物の条件＞ ・１人１種類、安全に飼育できるもの。 ・採集、えさやり、持ち運びが容易。 例：バッタ、アリ、ダンゴムシ、トカゲなど ・世話をしたり、遊んだりしながら、生き物の行動や成長を観察する。気付いたことを絵や文で表現し、その経験を友達と共有する。 卵を産んでいる。メスとオスの違いがよく分かった。 虫めがねを使って虫をよく見ました。 	○飼育について家庭への協力を求める（えさ、ケース、土日の扱いなど）。 ○主体的に活動し、気付きが共有されるよう目的別グループで活動する。手だて(1)(3) ○児童の虫に対する関わり方を、身近な生活に関わる見方・考え方の６視点をもとに見取り、それを振り返りの時間に生かす。 手だて(3) ○気付いたことをノートに書き、相手に伝え合うことで、新たな気付きを促す。手だて(2) ○「虫さんコーナー」を設置し、飼育している虫の変化や成長の様子などの情報を共有できるようにする。手だて(3) ◆生き物と関わろうとしている。 （意欲ア―観察） ◆世話の仕方を考えたり、調べたりしながら、気付いたことを自分な

	 虫さんコーナー 気付いたことや分かったことを書いて、自由に貼りました。	りの方法で表現したり、伝え合ったりしている。 （思考ア、イ―発言、ノート） ◆生き物も自分たちと同じように生きていることに気付いている。 （気付きア―発言、ノート）
7 8	もっとなかよし！ちいさなともだち 多摩動物園のふれあい教室に参加し、より多くの生き物とふれ合う。気付いたことを絵や文で表現する。 モルモットの適切な触れ合い方を教えてもらいました。 あたたかいね。ふわふわしているね。ハムスターと似ているけど、何が違うのかな。	○より多くの生き物の命を感じ、大切にしようとする心情をもてるよう、多摩動物公園との連携や他教科との関連を図る。手だて(4) ○気付いたことをノートに書き、相手に伝え合うことで、新たな気付きを促す。手だて(2) ○分析的な考え方や創造的な考え方をした児童の活動や発言を取り上げ、共有する声掛けをする。 手だて(3) ◆触れ合いを通して気付いたことを自分なりの方法で表現したり、伝え合ったりしている。 （思考イ―発言、ノート） ◆生き物も自分たちと同じように生きていることに気付いている。（気付きア―発言、ノート）

9 10 図工・国語と関連	活動を振り返ろう ・生き物とふれ合い、世話をした経験を絵や文など自分なりに表現し、友達と交流する。 ・飼育した虫をどうするか考え、活動をしめくくる。 バッタのことをクイズで教えます。 スズムシとの出会いから別れをペープサート劇にしました。 	○飼育を通して自分が成長したことや今後の虫との関わりについて考えられるようにする。手だて(3) ○気付いたことをノートに書いたり伝え合ったりし、気付きを確かなものへと促す。手だて(2) ◆気付いたことや楽しさを自分なりの方法で表現している。 （思考イ―表現物の分析） ◆生き物への親しみが増し、よりよい世話ができるようになったことに気付いている。 （気付きイ―発言、表現物）

7　検証授業を振り返って

本検証授業では、手だて(2)(3)(4)を重視して行った。

○　手だて(2)について

振り返りの時間を確保することで児童同士の気付きが十分に共有された。さらに手だて(3)の教師の声掛けによって、より一層気付きの質の高まりが促された。深い学びを促すためには、この振り返りの時間が欠かせないものであると言える。

バッタの口とカマキリの口とスズムシの口はみんな違ったよ。

食べているものが違うと口の形も違うのかな。

○　手だて(3)について

身近な生活に関わる見方・考え方の６視点（見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫する）を意識した活動や発言を教師が取り上げ、共有する声掛けをすることで、児童が気付くべきポイントが明確となり、気付きの質の向上を促すものとなった。

例えば、本研究授業においてみられた気付きとして、次のようなものが挙げられる。

＜カブトムシを遊ばせたグループ＞

・カブトムシを木に登らせたら、登るのは得意だけれど、下に降りるのは苦手だった。

力が強かった。運動会みたいだった。（試す、見付ける、たとえる）

・バッタと戦わせたら、戦わなかった。バッタは敵ではないようだ。（試す、見付ける）

＜イナゴやバッタを観察したグループ＞

・イナゴのおなかが赤かった。昨日より赤かった。熱が出ているのかな。（見付ける、比べる）

・バッタは葉っぱに似ている。だから、どこにいるのか見付けるのが大変だ。でも、じっと見ているとカエルみたいにピョンって跳ぶから見付けられるよ。（見付ける、たとえる）

これらの気付きを教師が活動中に見取り、記録しておくことで、教師の声掛けの質の向上につながった。

○　手だて(4)について

国語や図工、道徳等、他教科・他領域との関連を図ったり、「虫さんコーナー」並びに関連図書を準備した常時活動、多摩動物公園でのふれあい体験等を計画したりしたことは、児童の生き物への興味・関心を持続する手だてとして有効であった。しかし、活動と振り返りの時間を１単位時間の中で両方とも十分に行う、というのは難しかった。今後、２単位時間続けての展開にするなど、柔軟に単元計画を作成することが求められる。

検証授業(3)　第１学年（実施時期 10 月）

１　単元名

「いきものとなかよし」（全 10 時間）

２　単元の目標

校庭にいるバッタやダンゴ虫など身近な生き物を育てる活動を通して、関心をもって自分で世話の仕方を調べたり、世話をしたりして、それらは生命をもっていることに気付くとともに、生き物への親しみをもち大切にしようとする態度を育てる。

３　単元の評価規準

生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
ア　生き物と遊びたい、生き物を飼いたいなど、生き物と継続して関わろうとしている。	ア　身近な生活に関わる見方・考え方を働かせながら、世話の仕方を考えたり、準備したり関わったりしている。 イ　生き物とふれ合ったり、世話をしながら気付いたことやその楽しさを自分なりの方法で表現したり、伝え合ったりしている。	ア　生き物への親しみが増し、生き物の気持ちを考えて世話をしたり、より良い世話をすることができる自分に気付いたりしている。

４　単元の概要

本単元は、生活科の内容（7）を基に設定し、校庭の生き物（昆虫）とふれ合ったり、世話をしたりして、それらの変化や成長を発見することの楽しさを感じ取り、それらと自分との関わりに気付き、世話をしてきた自分の気持ちの変容にも気付けるようにしていきたい。また、より生き物へ親しみをもち、気付きの質を高められるように、３年生との交流や、併設しているこども園との連携を図り、身近な人と関わりながら、飼育方法を見聞きしたり、他の生き物にもふれ合ったりする活動を計画している。継続して虫を飼育していく活動を充実させながら、生き物を大切にしていこうとする心情をどの子ももてるようにしたい。

５　主題に迫る手だて

(1) 身近な人々、社会、自然と繰り返し、直接働きかける活動や体験を重視する。

・秋見付けと並行して、校庭探検を繰り返しながら、本単元の学習につなげる。

・朝の時間などに虫を関わる時間を確保するとともに、休み時間には可能な限り教員が付き添い児童が虫と関われるようにする。

(2) 振り返りの時間の確保とその内容を重視する。

・気付きを確かなものにし、活動の見通しをもたせられるよう、振り返りの時間を十分に確保する。

・気付いたことを自分なりに表現できるよう、ワークシート等を活用させ、相手に伝え合うことで新たな気付きを促せるようにする。

(3) 活動や体験の過程を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かせるようにする。

・気付きの質が高まるよう、分析的な考え方（見付ける、比べる、たとえる）や、創造的な考え方（試す、見通す、工夫する）をした児童の活動や発言を取り上げ、共有できるようにする。

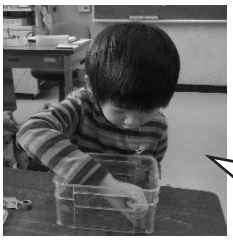
(4) 単元計画と授業の組み立て方を工夫する。

・児童の思いや願いをもとにした体験活動を充実させられるよう、児童の思いや願いをあらかじめ想定し、他教科や異年齢児童との連携を図る。

・３年生の教室やこども園で育てている虫を見に行ったり、アドバイスをもらったりして、繰り返し異年齢の友達と関われるようにする。

6　学習指導計画（10 時間扱い）

時	学習活動	○支援　手だて　◆評価
	（秋探しの校庭探検を繰り返す） ・畑にバッタがいたよ。 ・みんなで虫を探しに行きたいな。	○児童のつぶやきや発見を、学級全体に広める。　手だて(1)
1	どんな生き物がいるのかな	
2	・学校にいそうな生き物を予想する。	○昆虫との接し方、接した後の手洗い励行について伝える。危険な虫や生き物について注意を促す。
3	・生き物探しに必要なものや、探しに行く場所を考え、ワークシートに書き見通しをもって出かける。	○飼育への興味・関心がもてるよう、関連図書を準備しておき、意図的に活動を方向付ける。
	生き物さがしに行こう（共通体験） ・校庭や裏庭など自分たちで決めた場所に生き物を探しに行く。 ・見付けた生き物と触れ合い、感じたことや気付いたことを伝え合ったり、ワークシートに書いたりする。 ・飼育への見通しをもつ。 カマキリがいた。バッタもいるよ。	○振り返りの時間を確保し、気付いたことをワークシートに書いたり、友達と伝え合ったりする。気付きを確かなものにし、次回（飼育）への意欲と見通しがもてるような声を掛ける。 手だて(2) ◆継続して生き物に興味をもち、休み時間などでも自分から虫と関わろうとしている。 （意欲ア－朝や休み時間の様子）

4 5 6 7	生き物をそだてよう（本時：６時間目） ・育てたい生き物について調べたり、世話をしたり、遊んだりする。 ・世話をしたり、遊んだりしながら、生き物の行動や成長を観察する。気付いたことを絵や文で表現し、その経験を友達と共有する。  エサは何だろう。 図鑑で調べよう。 ・活動の始まりや振り返りの際に、分析的な考え方（見付ける、比べる、たとえる）や、創造的な考え方（試す、見通す、工夫する）を確認する。 カマキリのえさはかまぼことヨーグルトみたいだ。食べるか試してみよう。 	○朝の時間や休み時間など、虫と関わる時間を確保する。手だて(1) ○飼育について家庭への協力を求めておく。(餌、ケース、土日の扱いなど) ○身近な存在である第３学年の教室に行き、育て方について見たり聞いたりするよう促す。　手だて(4) ○分析的な考え方（見付ける、比べる、たとえる）や、創造的な考え方（試す、見通す、工夫する）をした児童の活動や発言を取り上げ、共有する声掛けをする。　手だて(3) ○活動の中での児童の見方・考え方を予測し、支援をあらかじめ考えておく。 ○活動や振り返り返りの際に、見方・考え方の視点を意識した声掛けをする。手だて(3) ◆分析的、創造的な見方・考え方を働かせながら、世話の仕方を考えたり、準備したりしている。 （思考ア―観察、発言、ワークシート）
8 9	生き物ともっとなかよくなろう ・第３学年の教室やこども園に行き、より多くの生き物とふれ合う。気付いたことを伝え合う。 バッタやカマキリが卵を産んでいるよ。 	○より多くの生き物の命を感じ、大切にしようとする心情をもてるよう、３年生との連携や道徳との関連を図る。手だて(4)

10	活動を振り返ろう ・生き物とふれ合い、世話をした経験を絵や文など自分なりに表現し、友達と交流する。 ・飼育した虫をどうするか考え、活動をしめくくる。	○飼育を通して自分が成長したことや飼育した生き物を今後どうするか考えられるようにする。 ◆生き物への親しみが増し、生き物の気持ちを考えて世話をしたり、より良い世話をしたりして大切にしようとしている。　（気付きア―観察） ◆生き物とのふれ合いを通して、生き物の気持ちに近づき、生き物も自分たちと同じように生きていることに気付いている。（気付きア―観察、発言、ワークシート）

7　検証授業を振り返って

本検証授業では、手だて(2)(3)(4)を重視して行った。

○　手だて(2)について

虫と関わる体験の後は、気付いたことや分かったことを振り返りカードに書く時間を確保した。さらに、全体でその気付きを授業内や掲示で共有することによって児童の気付きが関連付けられ深い学びにつながった。

（児童の振り返りカード）

ダンゴムシの足が 12 本だけど、ぼくのワラジムシは 14 本だからびっくりした。

ダンゴムシとワラジムシを比べる。

○　手だて(3)について

より気付きの質が高まるように、振り返りの際に分析的な考え方（見付ける、比べる、たとえる）や創造的な考え方（試す、見通す、工夫する）の視点を明確にすることで、振り返りの質の向上が見られた。

○○君がダンゴムシの足が 12 本と言っていたけど本当かな。

カマキリはヨーグルトを食べるらしいよ。食べさせてみよう。

さらに、活動をより充実させるために、活動の過程で児童がどんな見方・考え方を働

かせるのかを、教師は事前に予想して授業に臨むと、より気付きの質を高められる声掛けができることが分かった。

○　手だて(4)について

飼育活動と振り返りの時間を２時間続きの活動にすることで、児童も教師もじっくり虫と関わることができる。そのことで児童の気付きの質を高めることができた。その際、振り返りの時間を国語の時間にするなど他教科と関連付けて指導する。

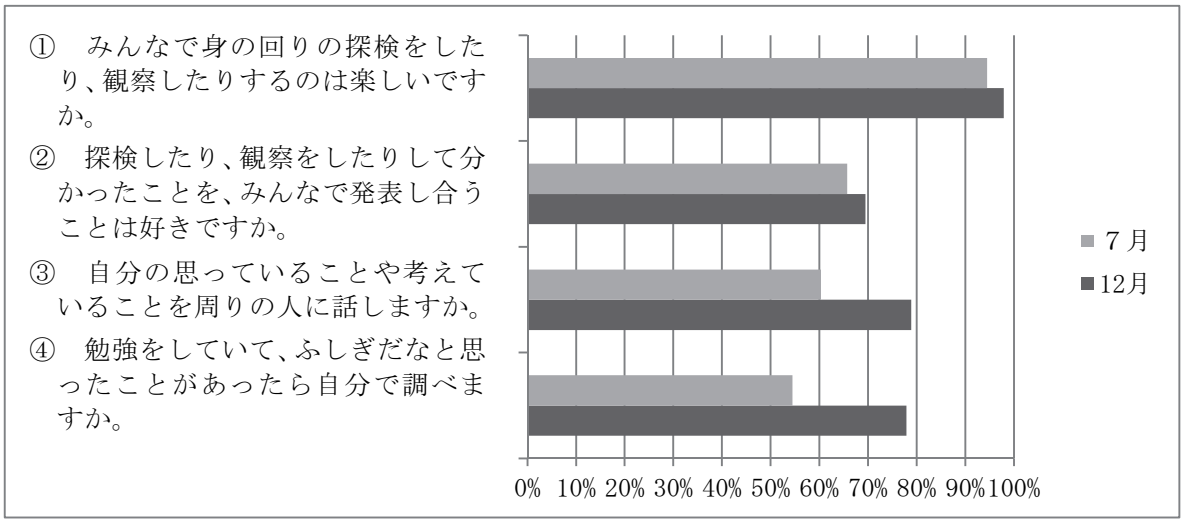
また、３年生やこども園と交流し、虫の捕まえ方や育て方などを聞くことで、新たな気付きを促すことにつながったと同時に、大切に育てるという態度も自然な形で伝わった。

３年生が１年生にダンゴムシがいる場所を教えている。虫を捕まえられない１年生に虫を捕まえる３年生

こども園では園児がカイコを飼っていた。繭（まゆ）になった様子を見に行き、カイコの育て方を聞いてきた。

Ⅵ　研究の成果と課題

本部会では、部員所属学級を対象に「生活科の学習に関する実態調査」を７月及び 12 月に実施した。



［図２　生活科の学習に関する実態調査　肯定的な回答をした児童の割合］

調査結果から、児童は思いや考えを伝え合うことや新たな活動への見通しをもつことについて肯定的な考えをもてるようになったことが分かる。目指す児童像から本研究を振り返ると、以下の成果と課題が挙げられた。

１　成果

(1) 学習上の自立

身近な生活に関わる見方・考え方を生かした活動や振り返りを重視したことで、自分の思いや願いを明確にして次の活動への見通しをもちながら学習をすすめることができた。おもちゃ作りでは材料の準備や遊び場など、次の活動を見通したり、虫の飼育ではえさや育て方を試したりする様子が見られた。このことから、特に手だて(3)は、学びを深めていくには有効な手だてと分かった。また、手だて(2)と手だて(3)は密接な関わりがあることも分かった。

(2) 生活上の自立

対象と繰り返し直接働きかけることで、親しみや愛着がわき、より豊かな生活をしようとする児童が見られた。季節遊びでは、季節ごとに合わせた遊びを十分にしたことで、「コンクリートが暑くて歩けないからサンダルが必要だ。」「雨の匂いがするから、明日はレインコートをもってこよう。」などと発言していた。このことから、体験したことを実感の伴った言葉で表現し、より豊かな生活をしようとする力が培われていることが分かる。また、手だて(1)身近な人々、社会、自然と繰り返し、直接働きかける活動や体験を重視する過程で、身近な人々、社会、自然を自分との関わりと捉え、自分の経験を生かしながら楽しもうとする姿が見られた。

(3) 精神的な自立

学習を進めていく中で、友達のよさを見付けられる児童が多くいることが分かった。友達

と一緒に活動する中で、友達との関わりに心地よさを感じる様子が見られた。２年生の町たんけんのまとめでは､｢〇〇さんの絵がくわしくかいてあってどんな様子だったかよく分かるよ。｣、おもちゃ作りの単元では「〇〇さんと一緒に活動すると楽しい。アイディアが思い浮かぶよ。」と、振り返る姿が見られた。

２　課題

気付きの質を高めるために、見付ける、比べる、たとえるなどの多様な学習活動の工夫が求められる。単元によって表出される見方・考え方が異なるため、今後も教師が想定しながら授業を組み立てていく必要がある。

また、夢や希望を持って進級できるにするために、児童が自分のよさを実感できるようにするための教師の手だてが必要である。

さらに、学校の実情や地域環境により、繰り返し活動をしたり単元計画と授業の組み立て方を工夫したりするのが難しい場合もある。学校全体でカリキュラム・マネジメントをしていくことが求められる。２学年間を見通した計画の中で内容の配列を工夫し、単元を構成していく。

平成 29 年度　教育研究員名簿

小学校・生活

学　　校　　名	職　名	氏　　名
渋 谷 区 立 千 駄 谷 小 学 校	教　　諭	橋 本　　靖 子
板 橋 区 立 高 島 第 二 小 学 校	主任教諭	関 根　　愛
日 野 市 立 旭 が 丘 小 学 校	主任教諭	◎ 樋 口　　玲 奈
多 摩 市 立 豊 ヶ 丘 小 学 校	主任教諭	半 杭　　貴 子

◎　世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事　　西　和昌

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

小学校・生活

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年３月

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所　在　地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８４９
印刷会社　康印刷株式会社

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。